

インプラント予備知識

恵生会 厚生歯科

点滴麻酔（静脈内鎮静法，日帰り麻酔）とは、

点滴麻酔、いわゆる静脈内鎮静法は治療のストレス緩和の管理方法として発展してきました。リラックスした治療が可能です。究極の無痛治療法、無痛鎮静法、日帰り麻酔、リラックス治療法などと称しています。

緊張や嘔吐反射、疼痛反射等の有害反射や体動を抑制し、安静を保ち、繊細なインプラント手術、安全で快適な状態での手術や治療を可能にします。

意識はなくなりません。意識のある状態の全身麻酔法です
(一般的な全身麻酔法は意識が全くなり、2泊3日の入院が必要です)。

緊張や不安・恐怖は、合併症を悪化させたり、神経性ショックをはじめとする全身的な偶発症を発生させる原因となります。

予備力の低下した有病者や高齢者でも、点滴麻酔は血圧、脈拍を安定させ、安全で有用な麻酔法です。

手術を正確に行うためには、疼痛からくる体動を確実にコントロールすることがとても大切です。
体動をコントロールできる点滴麻酔法は口の中の手術に最適の麻酔法です

誤嚥の危険を回避するために、適度な嚥下反射を残しつつ、過度な緊張が取り除かれ、傾眠（眠ったようなうつらうつらした）状態になります。

笑気吸入鎮静法に比べて、はるかに確実に安定した鎮静状態が得られ、治療時のイヤな記憶が残らない健忘効果が得られる利点があります。

- 肉体的なストレスが緩和されるので、治療や手術のために長時間口をあけたままにしても苦痛を伴いません。
- 刺激に対する反応が抑制されるので、治療の妨げになる体動をコントロールできる。
- 点滴で静脈路を確保しているの、緊急時にも迅速に対応できます。



内服薬（チャンピックス）による歯科禁煙治療

インプラントの禁煙治療のための飲み薬であるバレニクリン（商品名：チャンピックス）が内服薬として使えるようになりました。



ニコチンのインプラントに対する作用

ニコチンは抹消の毛細血管の血流を阻害します。この作用がインプラント手術後の総称治療とインプラントと骨との結合を阻害します。その結果、インプラントの失敗率が約30パーセント増加するといわれます。

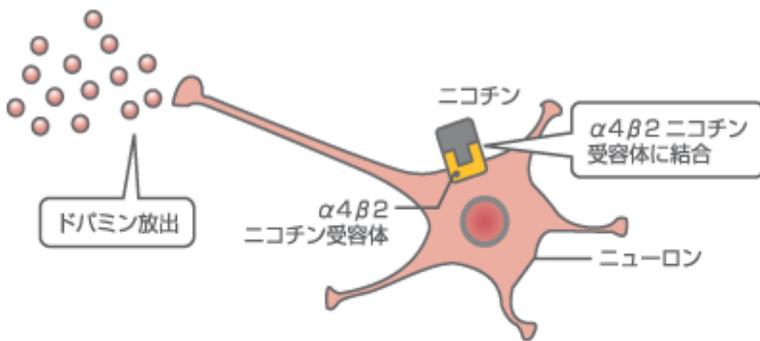
チャンピックスは禁煙成功率を劇的に改善します。

しかし、一般の薬のように飲めば禁煙できるわけではありません。

効果を上げる飲む量、タイミングに調整が必要です。

本院ではこの調整は担当歯科医と衛生士が指導いたします（自由診療）。

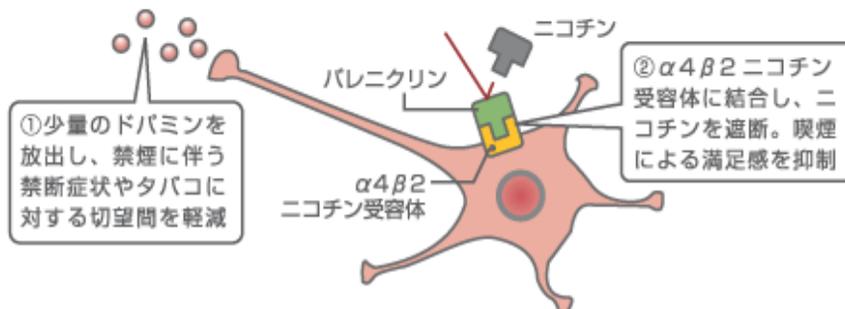
ニコチンの作用



ニコチンの作用

タバコの煙に含まれるニコチンは脳内のニコチン受容体に結合し、**ドーパミンという快楽物質を放出し、タバコがおいしいと感じます。**この快感を一度経験すると、**依存症へとつながり禁断症状も強く出ます。**

バレニクリンの作用



バレニクリンの効用

バレニクリンはニコチン受容体に強く結合しニコチンの結合を阻害します。**喫煙してもタバコがおいしくなくなり、満足感が得られず、逆戻りにしてきます。**

インプラントのための部分小矯正治療

A: 根だけの歯を引きあげる（アップライト）による治療例



■ 治療の流れ STEP1

歯根しかない歯の両隣の歯に矯正装置のワイヤーをつけます。

STEP2

歯根にフック状のワイヤーを付けて、ゴムの力で引っ張り上げます（約1～3ヶ月）。

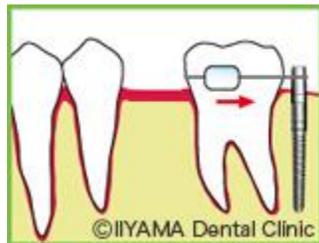
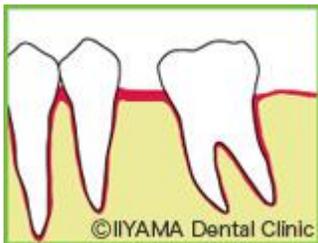
STEP3

歯肉のライン上まで出てきたら、周辺の歯肉を修正します。

STEP4

約2～3ヶ月後、かぶせ物を入れて治療終了です。

B: 傾いた歯を起こす（アップライト）による治療例



歯を失ったまま放置すると、隣の歯が傾いてしまい、治療のためのスペースがなくなります。その場合、前処置として、**部分矯正治療**を行い、インプラントのためのスペースを確保します。

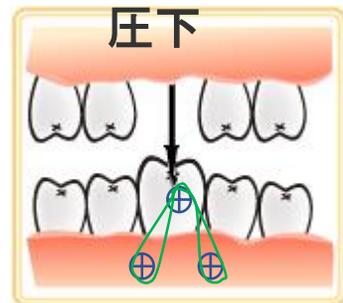
■ 治療の流れ STEP1

ミニインプラントを大白歯の奥に埋め込み、引っ張って、大白歯をまっすぐに起こします。

STEP2

スペースにインプラントもしくはブリッジを施して治療終了です。

C: 歯の挺出に対し 圧下する治療

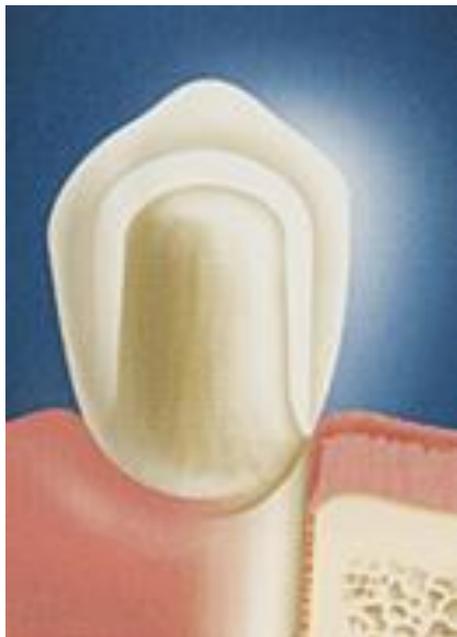


噛み合わせの相手の歯がない状態が続くと、上の歯は下へ、下の歯は上へと伸びてきてしまいます。これを歯の**挺出**といいます。

長期間放置してしまうと歯がグラグラになってしまったり、抜け落ちてしまうこともあります。

歯の**挺出**にたいし、**部分小矯正治療**によって歯を歯槽骨の中に押し込めることを**圧下**と言います。

かぶせものはジルコニア・オールセラム
金属を使用しない装置が主流です。



ジルコニア・オールセラムは金属を使用しない理想的な光の透明度、
生体親和性、優れた強度を兼ね備えた、オールセラミックです。前歯
にも奥歯にも使えます。現在はスタンダードの治療法になっています。



従来のメタルをベースにしたセラミック冠は、**金属アレルギー**、**金属腐食**、**異種金属間の微弱電流**（乾電池現象）により、現在は使われない方向になっています。



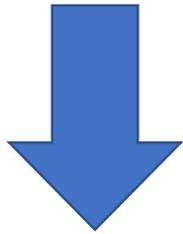
BEFORE

AFTER

インプラントを長持ちさせるための

メンテナンスのポイント

ポケットの歯周病菌量を**最少**にして、
その状態をながく**維持**する



CISTシステム

レベル 1：毎食後の歯磨き
患者さん自身による

レベル 2：取り残しの除去
衛生士さんによる毎月の汚れとり

レベル 3：専用薬液による除菌
1日2回、患者さん自身による薬液カラミガキ

インプラントは一定の長さ、太さ、数が必要です。

インプラントには通常30から40Kg位の力がかかります。
この力を負担するためのインプラントの条件は

a)インプラントは一定の長さが必要

10mmから13mm、最低でも6mmの長さのインプラント
が必要です。

b)太いものがよい。

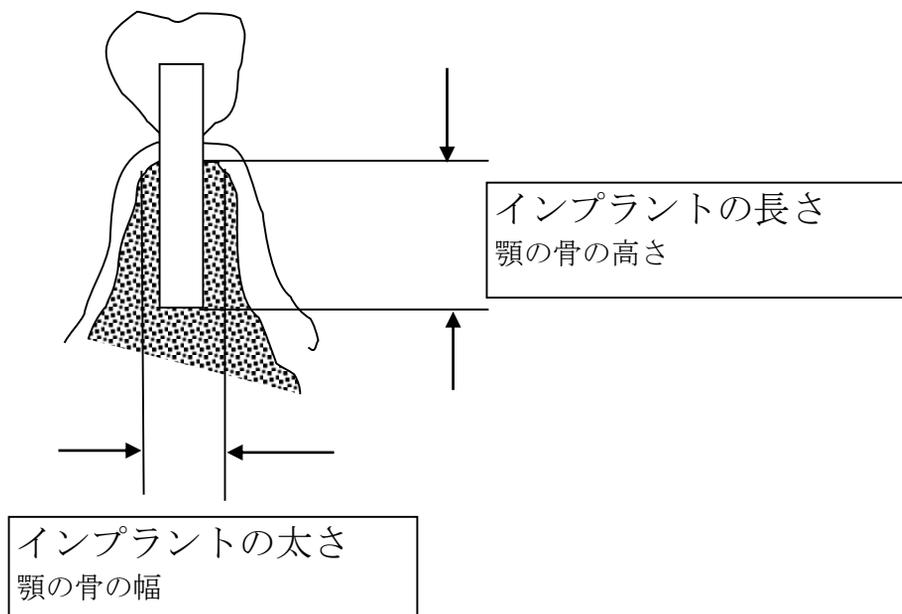
スタンダードは4mm前後、顎の幅にあわせて、太めの
ものを使います。

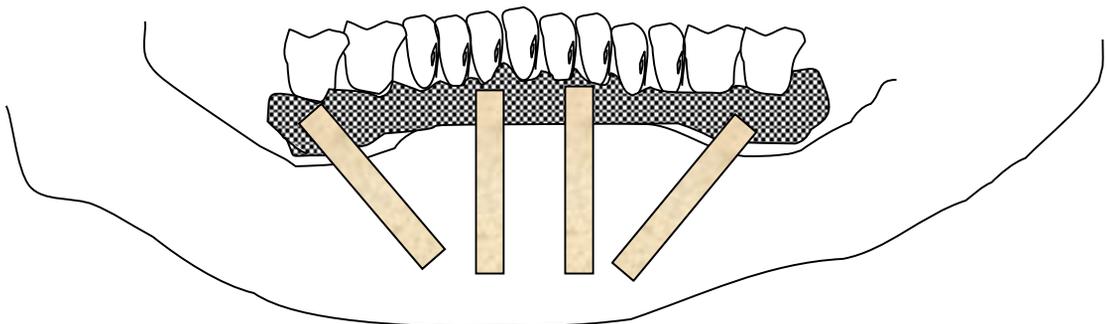
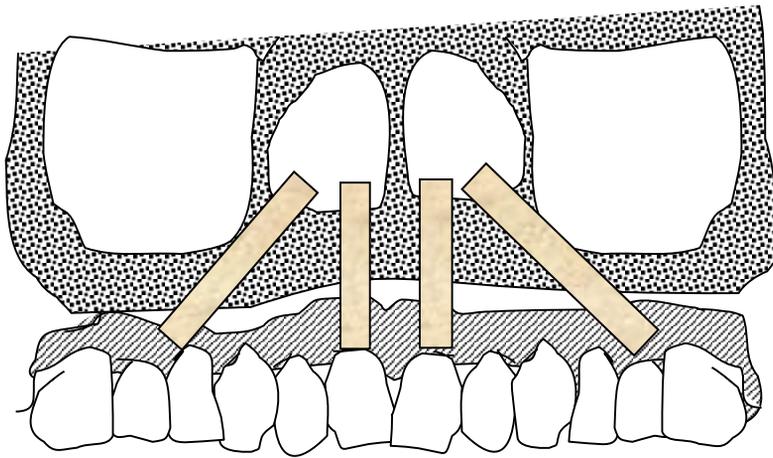
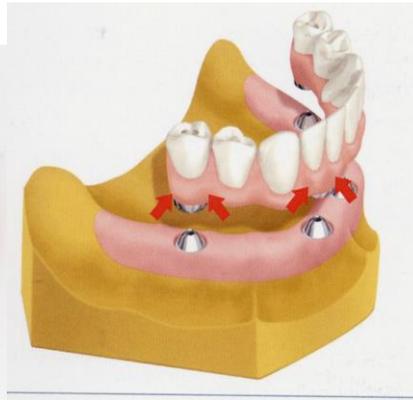
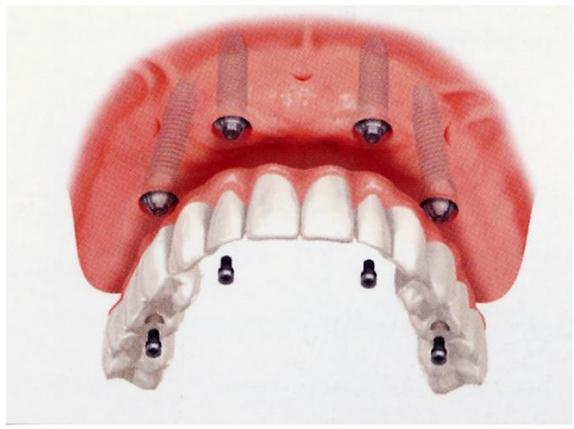
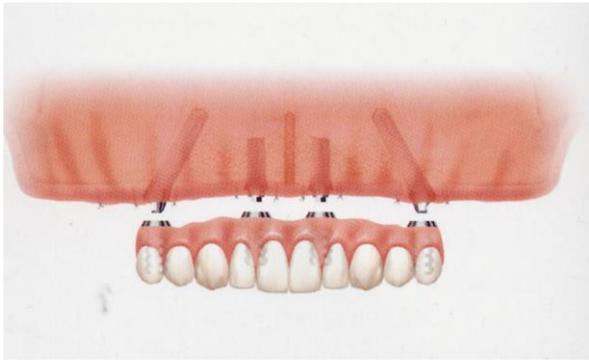
c)本数は多い方がよい

原則は、1歯の欠損部に1本です。

しかし、連続して2歯以上の欠損部がある場合は
最低2本が原則です。

多数歯の欠損ではキーポイントになる場所（切歯、
犬歯、大臼歯）を中心に配置します





骨再生療法

リテーナー（保定装置）とは 矯正装置で動かした歯を安定させる大切な装置



▲ いろいろな

リテーナーは、[ブラケット](#)とワイヤーを使ったマルチブラケットなどの矯正装置によって、歯並びと咬み合わせを整えた後に使用する装置です。矯正装置は、歯や顎を動かすための装置ですが、リテーナーは、矯正装置をはずした後に、移動した歯が元の位置に戻ろうとする「後戻り」を防止するために使用する、『歯を動かさないための装置』です。

歯の移動は、矯正装置によって力をかけられた歯の周りの骨（[歯槽骨](#)）が溶け、その溶けてできた隙間に新しい骨ができることを繰り返して起こります。このため、歯の移動が終了した後も、歯の周りの骨は、しっかり詰まっているわけではなく、不安定な状態です。また、歯と歯ぐきを結んでいる繊維の形は簡単には変わらないため、新しい歯の位置から、もともとあったの位置に引き戻す力を歯に加えています。

つまり、矯正装置をはずしたあとの歯の周りの骨とハグキの繊維は、矯正治療をする前の元に位置に戻ろうとしているため、とても不安定な状態なのです。矯正装置を外した後は、リテーナーと呼ばれる保定用器材でしっかりと保定して、正しい位置に歯を固定しておく必要があります。

リテーナーの装着期間

リテーナーには、取り外しのできるタイプ（可撤式リテーナー）と、取り外しができないタイプ（固定式リテーナー）があります。

矯正治療を終えてから1年間は、歯が非常に後戻りしやすい状態なので、取り外しができるリテーナーでも、1年間は歯を磨くとき以外は、お口に装着しなければなりません。

リテーナーをはじめて1年くらいから、徐々に歯の位置が落ち着いてくるので、定期的な観察をしながら、徐々に、リテーナーを外す時間を増やしていきます。

最初は食事の時間だけ、次に3時間、次に6時間、そして夜就寝時のみ、というように、外す時間を延ばしていきます。

リテーナーが必要な期間は、矯正装置をつけた動的期間と同じくらい、2年～3年ほどといわれています（個人差があります）。

なお、リテーナーを外したあとでも、後戻りするケースがあるので、美しい歯並びを生涯保つために、リテーナーをより長期間装着する場合があります。

リテーナーの種類

ベッグタイプリテーナー（可撤式）

一般的に多く使われている取り外しができるリテーナー。ワイヤーが表側の歯並び全体を包み、裏側からは、透明なプラスチックのプレートが歯列を抑えます。

ホーレータイプリテーナー（可撤式）

ベッグタイプリテーナーと同様、歯の表側をワイヤーで抑え、裏側をプラスチックのプレートで抑える取り外し可能なリテーナーです。

後戻りのしやすい前歯のみを表側からワイヤーで抑えています。

クリアリテーナー（可撤式）

リテーナーの中には、取り外しのできるマウスピースタイプのものがあります。

「ソフトリテーナー」、「インビジブルリテーナー」、「トゥースポジショナー」などともいわれています。

アクリル樹脂やラバー系の材料でできており、透明で目立ちにくいのが特徴。

フィックスタイプ（固定式）

取り外しのできないリテーナー。フィックスタイプは歯の裏側に、ワイヤーを接着して固定して後戻りを防ぎます。取り外し式のリテーナーよりも、装置が小さく目立ちにくいのが特徴です。

取り外しができないため歯磨きがしにくいですが、保定に優れています。